

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600542
法人名	有限会社添田商産
事業所名	グループホームかがやき
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地
自己評価作成日	H30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年11月28日	評価結果確定日	平成31年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「家庭的な生活環境」の提供②「残存能力を活かした生活」の推進③「尊厳ある生活」の重視④「楽しみ」の提供⑤「安心感」の醸成⑥「地域社会とのつながり」の重視という6つの理念のもと、利用者のニーズを職員全体が的確に共通理解し1日を穏やかに、安心して暮らして頂けるように努力しています。また地域行事への参加等、日常的な交流を通して地域とのふれあいを大切にしています。個別での買い物代行、通院同行、入院中の洗濯物の引き取り等を行い、安心して生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化へと移行している地域の中で、開設して15年目を迎えている事業所である。運営推進会議のメンバー構成が充実しており、事業所の実状を理解して頂き、開かれた事業運営に努めている。また、地域や行政等との連携を重ねてきた中、平成30年の豪雨の際には近隣で土砂災害が発生し、関係者との迅速な対応が図られている。センター方式を活用した暮らしの継続に向けた働きかけや、新規採用者の新たな視点を日々の業務に反映する等、職員個々の気づきや能力の発揮を大切に考え、サービスの向上につなげるべく取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが維持できているか、又共有できているか毎日の申し送り等で確認を行い、職員全体が意見交換できる場を設け実践しています。	運営理念や指針は名に付きやすい場所に掲示され、利用者の方々と共に朝礼時に唱和されている。新規採用時には理念の共有を重要視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や清掃活動等、中学生の職場体験受け入れ等日常的に交流しています。	地域の祭りの際には御神輿の巡行を受け、行政や社会福祉協議会の主催する「ふくしまつり」等にも参加している。運営推進会議には、郵便局長や元消防署長等の出席を得ている。中学校の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加と、事業所内での作品等の展示、また地域の憩いの場としての庭先の開放及び、手洗い等の貸出しをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動内容の報告、利用者の状況、現在の地域の状況等を意見交換し、サービス向上に努めています。	運営推進会議は、区長や郵便局長、民生委員、地域包括支援センター担当者等の出席を得て、2ヶ月に1回開催されている。それぞれの委員の方が消防署長やPTA会長等の役歴を持ち、事業所と地域や行政との橋渡し役を務めて頂いている。家族の参加が少ない状況であるが、議事録を開示し情報共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者と電話や面談を定期的に行い、連携を図っています。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。運営上の相談や手続き、困難事例への対応等について、顔の見える関係性の中で連携を図っている。平成30年度の豪雨の際には近隣で土砂災害が発生し、行政担当者の迅速な現状確認と対応が行われた経緯があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員の見守りによって事故防止に努めています。またマニュアルの作成や研修会へ参加し、身体拘束の意味やその害を考え、職員全員が理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	身体拘束排除宣言を掲示し、指針の作成や研修実施、運営推進会議の中での現状報告等を行っている。継続して取り組んできたスピーチロックへの意識向上についても、職員への浸透が深まってきたと管理者は感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会への参加、インターネット等を活用し、会議を開き情報の共有を図っています。職員間での言動にも注意し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権研修の中で職員全員が権利擁護に関する制度を正しく理解できるよう努めています。また利用者のご家族や、町や福祉事務所の担当者と連携をとり、それらを活用できるように支援しています。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいませんが、資料を整備し、必要時の情報提供を可能としている。研修機会の確保に努めながら、職員の理解や意識を高めるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や利用者に理解していただけるよう、必要な情報を書面で説明し、理解されているか確認しながら、納得していただいた上で契約を締結しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族がいつでも意見が出来る雰囲気づくりに努めています。また年に1回の家族交流会の開催、交流会後のアンケート等で意見を頂戴し、サービス向上に努めています。	年に1回、食事を兼ねて家族交流会を開催しており、参加率も高い。また、その際には運営推進会議委員の参加もある。交流会後にアンケート調査を行った実績もあり、家族の意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の全体会議の開催や個別相談等で職員の意見や提案等を聞く機会を設けています。	年2回の全体会議や随時のミーティング、申し送り等を通じて、情報共有や意見交換を行っている。新規採用者の視点も大切にとらえ、新鮮かつ客観的な意見として業務に反映する機会もあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に相談に応じたり、年齢や家庭環境等に配慮した職場環境作り、条件の整備に努めています。また、職員的能力、就労状況に見合った報酬体系を構築し、キャリアアップのための研修参加も促しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に年齢や性別を判断材料にしていません。また、勤務表作成時等は地域や家庭での役割を理解し、公休等の希望は極力受け入れ、自己実現の権利も保障されるように配慮しています。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。個別の状況に配慮した勤務調整や、料理等の得意分野を發揮する場面を大切にとらえ、働きやすさやモチベーションの確保に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年2回の人権学習へ全職員が参加、また利用者の尊厳を重視するよう理念にも位置づけし取り組んでいます。	地域の人権研修等に職員が参加し、内部研修でも尊厳や高齢者虐待防止関連法、倫理及び法令遵守等を年間計画の中に位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加する機会を設け、職員のスキルの向上に努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種への勉強会の参加や、他施設のイベントへの参加、地域包括主催の勉強会での交流等を通じて、サービスの質の向上に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の要望等を傾聴し、孤立することのないよう利用者に寄り添い、細やかなコミュニケーションをとりながら安心を確保出来るように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望等を受け止め、それに応えられるように時間をかけて説明を行い関係作りに細心の注意を払っています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直ぐに入居するのではなく、利用者、家族の状況、要望に応じて他のサービスの紹介等もしています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てにおいてお手伝いするのではなく、利用者の残存能力を活かせる支援に努め、共に暮らす家族の様な信頼関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意志決定はご家族に一任し、生活面でのサポートも時にはお願いしています。また家族交流会等を通じて家族にも楽しんでもらい、利用者と家族の時間も大切にしながら、共に利用者を支える関係性を築いています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来居、電話連絡への配慮や、地域のイベントへの参加等で、家族だけでなく、友人とも出来る限り関係性が途切れることがないよう支援しています。	家族や友人、知人等の来訪する機会も多く、ともに歓迎しゆっくりと過ごしていただいている。入居間もない家族の宿泊や、事業所にて家族と共に食事する方への支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやリハビリでの位置や、声掛け等を行うことで、利用者が孤立することがないように配慮しています。また毎日の食事や、利用者の誕生日会等を通して利用者同士の関わりを大切にしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお世話や、必要に応じて利用者や家族の相談や支援に積極的に取り組んでいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を聞き、日々記録し職員間でも共有しています。以降の把握が困難な場合には、日常の発言や表情等から利用者本位に検討し出来る限り実践しています。	センター方式学習会を実施し、6ヶ月ごとに更新している。入浴時のリラックスした1対1の場面では、普段とは違う発言や表情を見る機会もあり、個別の思いや意向を推し測り、職員間での共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、知人等からの情報を基に、これまでの生活環境、暮らし方の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の表情や食事量、家族やかかりつけ医からの情報を基に、心身状態や有する力等の現状の把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望まれること、家族が望まれること、課題とケアの在り方と見極めを重視し、現状に応じた介護計画を作成しています。	センター方式も活用しながら、本人、家族の意向を踏まえた介護計画の作成に努めている。本人や家族の役割も位置付けながら、日々の記録や毎月のモニタリング等を通じて、現状に即した介護計画作成に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	症状の進行や、心身状態の気づきを毎日記録し、毎日の申し送り等で職員全員が情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者との日々の関わりの中で得たニーズや、家族から得たニーズ(入院時のお世話や病院への付き添い、行政機関への手続きのお手伝い等)に臨機応変に対応しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括や各行政との連携、病院等のリハビリの同行等、時と場合に応じて対応しています。また地域行事に参加し、地域の方との交流に努めています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は利用者及び家族の希望を取り入れ、適切な医療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医や複数の協力医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。日常生活の中での職員の気づきを大切にしながら、健康状態等、家族との情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化に注意し、必要時にはかかりつけ医の看護師と電話やFAX等で連絡を取り合い、緊急時に備えています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2日に1度は病院に出向き、関係者と連絡を取り早期に受け入れできる体制を整えています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と何度も話し合いを持ち、希望を受け入れ方針を共有するよう取り組んでいます。また地域の関係者やかかりつけ医とも相談の上支援しています。	入居時より、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針を説明し、意向を確認している。センター方式の活用や、状況の変化に伴い話し合いを重ねる中で、本人及び家族の意向の把握に努めている。外部のターミナルケアに関する研修を年間研修計画の中に位置付けている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に直ぐに気づくように日々の状況を把握し、事故発生時には直ぐに対応できるように、消防署の訓練を受け救命救急を受講し備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加で防災訓練を実施しています。また、訓練の実施内容を運営推進会議で地域の有識者等にも報告し、協力を得られるような体制を築くように努めています。	各種災害対応マニュアルを整備し、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議には、元消防署長の出席を得ており、アドバイスを得ている。今年度は、事業所の近隣で土砂災害が発生し、関係各機関との迅速な連携を図った経緯もあった。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を重要視しながら言葉かけや対応をしています。場合によっては二人きりで話をする等プライバシーの保護に努めています。	センター方式も活用しながら、個々人の「その人らしさ」について理解に努めている。地域性の共有とプライバシーの確保について配慮しながら、関係者間で協議を重ねている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でいつでも話しやすい環境作りに努めています。また心身状態や精神状態に考慮し、自己決定ができる雰囲気作りに努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、その日その日をどのように過ごすか、利用者の希望にそえるように支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や家族の意見を取り入れながら、衣服の好みや定期的な散髪など、おしゃれが楽しめるように支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の際、できるだけ個別の希望を取り入れ、食事も気の合う利用者とできる環境作りに努めています。その日の体調や残存能力に応じて食事の準備や片づけなど出来ることを共同で行っています。	食材は配達品や買い出しを行いながら、職員が交代で調理を行い、手作りの食事を提供している。個別のニーズや出来る事等の把握に努め、力を発揮できるよう検討を行っている。家族との外食の機会をサポートしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関からの情報を基に、水分量の調整や食事の栄養バランスに配慮し、一人一人の状態や嚥下力に応じた形態(ミキサー食・キザミ食等)で提供しています。また必要時には補助食品等を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び、毎食後の口腔ケアの実践、義歯の洗浄、口腔内の洗浄も職員の付き添いのもと適切なケアをしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンや習慣を掴む努力をし、定期的にトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促しています。夜間は利用者の状況に合わせてポータブルトイレを使用しています。	排泄チェック表を用い、個別の排泄状況の把握に努めている。また、センター方式の活用も含め、排泄パターンや課題を検討・共有しながら、声掛けや誘導を行っている。日常の中で、歩行訓練や姿勢保持に向けた生活リハビリに努め、排泄の自立に向けて働きかけを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境が整うような食材を中心にした献立を作成しています。また適度な運動を行い便秘の予防に努めています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本的な入浴日にしています。その他利用者の希望や体調、状況に応じて対応しています。	基本的な週3回の入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴も含め、柔軟な対応に努めている。浴室に加え、シャワー室が設備されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠気味の方はリクライニングチェア等で対応しています。夜間は消灯時間を設けず、居室での休息・睡眠が安心してできるように、一人一人の生活習慣や状況に応じて支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、量を記載したファイルを作成しています。職員はその内容を理解し、処方箋等で確認し服薬の支援を行っています。また心身状態に応じてかかりつけ医にその都度指示を仰ぎながら支援しています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、得意分野(裁縫・料理・歌・運動等)を活かし、日々を楽しく過ごせるように支援しています。また利用者にあった役割(洗濯物たたみ等)が持てるように支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出(買物・ドライブ・食事等)されたり、外泊されたりする機会を利用者の希望に可能な限り対応し必要な支援を行っています。	庭園のある敷地内では、季候に応じて気軽な外気浴が可能である。家族の協力を得ながら、ドライブやカラオケ等に出掛けることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時折買物に出掛け、欲しいものが購入できるように見守りや、支払い時には手助けしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、手紙の差出し電話等の手助けをし、家族との関係性を維持出来るように支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を広く清潔に保ち、時には目隠しを置き混乱に繋がらないように配慮しています。また季節感のある手作り作品や飾り付けをし、季節を感じられるようにしています。	共用空間各所に季節感ある飾り付けや作品が掲示されている。また、室温や湿度、換気等にも留意し、清潔感ある室内空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を変更したり、2~3人が雑談できる場所を設け、思い思いに過ごせるよう配慮しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際家族の方に本人の使いやすい物や馴染みの物を持って来ていただき、できるだけ安心して暮らしていけるように、元の暮らしの再現を心掛けています。	居室には、筆筒や仏壇等が持ち込まれ、個別のリスクや動線への配慮を行い、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手洗いには電気を点灯し、トイレや非常口は分かりやすく明示しています。写真付きの表札をつけ自分の部屋を認識できるように配慮しています。		